

スマートフォン等のデジタルツールやSNSの普及により、人と人との交流の在り方は変化しました。人間関係も希薄になり、勤務時間外における自然な交流の機会は減少しましたが、一方で自治体経営では職員どうしの信頼関係やコミュニケーションが重要な基盤となります。昨年度に「人との繋がり再構築」をテーマにスポーツ大会を開催しましたが、成果と課題を整理し、「出雲市役所職員交流の日」を提案します。

人とのつながりを組織の力へ —「出雲市役所職員交流の日」の提案—

島根県本部／出雲市職員連合労働組合・自治研推進部

1 はじめに

スマートフォン等のデジタルツールやSNSの普及により、私たちのコミュニケーションのあり方は大きく変化しました。時間や場所を問わず情報交換ができるようになった一方で、人と人が直接顔を合わせて交流する機会は減少しています。また、新型コロナウイルス感染症の流行も拍車をかけ、地域行事やサークル活動にも影響を与えています。

こうした変化は自治体職場も例外ではなく、以前は歓送迎会や職場行事を通じて自然に形成されていた人間関係も希薄になってきています。働き方改革の進展により時間外勤務の縮減が進んだことは歓迎すべきことですが、その一方で勤務時間外における自然な交流の機会は減少しています。

一方で、自治体を取り巻く課題は年々複雑化しています。人口減少、防災、地域交通、福祉、インフラの維持など、単一の部署では解決できない課題が増加しており、部署横断的な連携がこれまで以上に求められています。そのため、自治体経営で、職員どうしの信頼関係やコミュニケーションが重要な基盤になると考えています。

私たち出雲市職員連合労働組合自治研推進部は、2025年以降、「人とのつながりの再構築」をテーマとして活動が続けてきました。本レポートでは、2025年の自治研活動の振り返り、第1回出雲市役所スポーツ大会の実践を通じて見えてきた成果と課題を整理し、その発展形として提案する「出雲市役所職員交流の日」について報告します。

2 自治研活動で見えてきたこと

私たちは昨年度、「スポーツ大会を通じた人とのつながりの再構築」をテーマに自治研活動に取り組みました。

まず、毎年地元で行われていた「地区民体育大会」を「地域スポーツ大会」と名称を改め、コロナ禍によって失われつつあった地域コミュニティの再生を目指し、幼児から高齢者までが



参加できる新たな大会形式へと見直しを行いました。その結果、100名を超える参加者が集まり、「久しぶりに地域の人と話すことができた」「また参加したい」といった多くの声をいただくことができました。

また、職場でも、スポーツを通じた交流の可能性について検討を行いました。“自治体職場における人と人とのつながりが希薄化している”と問題意識を持ち、職場スポーツ大会の企画を進めました。これらの活動を通じて私たちが実感したのは、スポーツには人と人との距離を縮める大きな力があるという

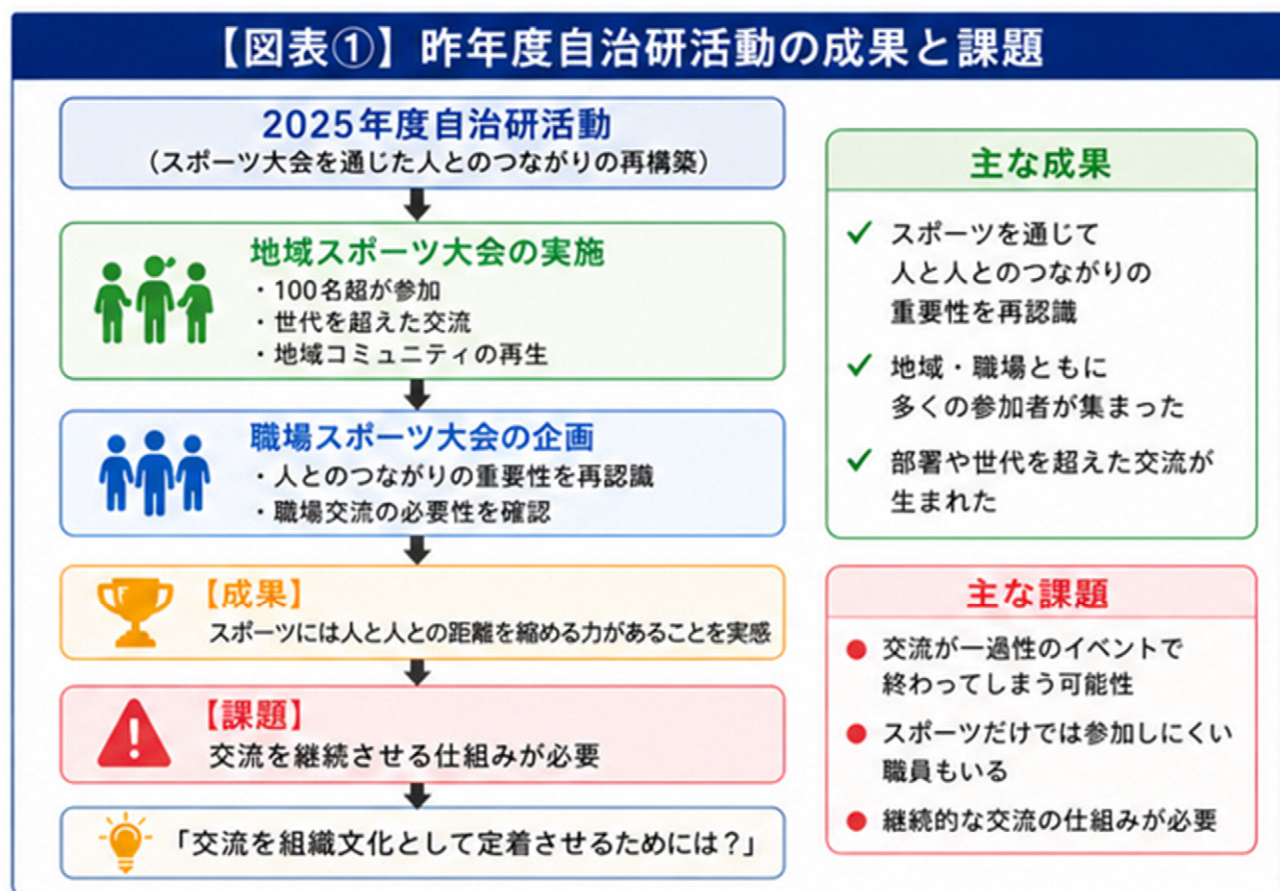
ことです。年齢や立場の異なる人どうしであっても、同じ競技に取り組み、同じ時間を共有することで自然な会話が生まれます。地域では世代を超えた交流が生まれ、職場では部署や職種を超えた交流が生まれました。

一方で、新たな課題も見えてきました。それは、「交流の場をつくること」と「交流を継続させること」は別であるということです。スポーツ大会の当日は盛り上がったとしても、その効果を継続的な交流につなげる仕組みがなければ、一過性のイベントで終わってしまう可能性があります。

2025年度のレポートでも、職場スポーツ大会を単発で終わらせず、継続的な交流につなげることが今後の課題であると整理しました。そこで私たちは、「交流を一過性のものではなく、組織文化として定着させるためにはどうすればよいのか」について検討を進めることにしました。



【図表①】昨年度自治研活動の成果と課題



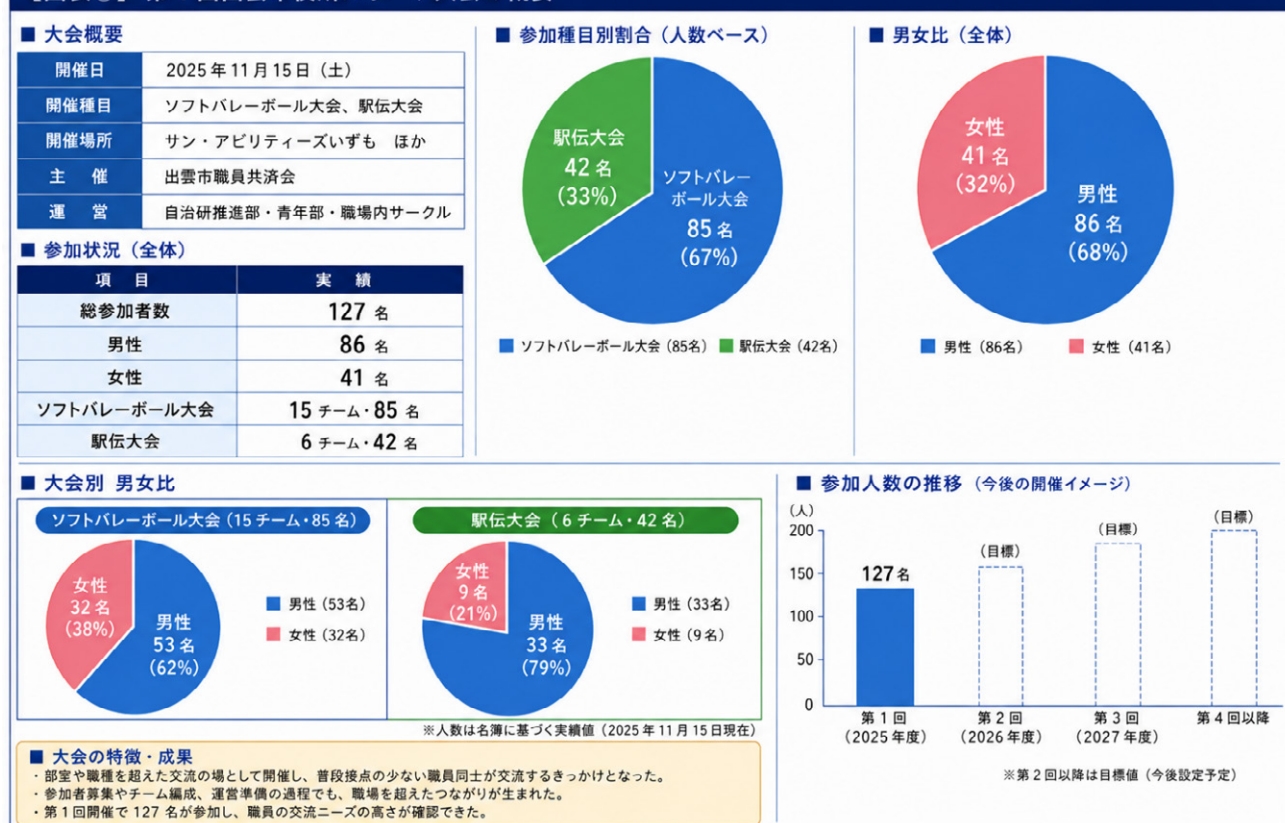
3 第1回出雲市役所スポーツ大会の実践

2025年度の自治研活動で得られた学びを踏まえ、自治研推進部では、実際に職場交流事業として「第1回出雲市役所スポーツ大会」を開催しました。この大会はソフトバレーボール大会と駅伝大会の二部構成とし、幅広い職員が参加しやすい内容を目指しました。自治研推進部だけでなく、青年部や職場内サークルとも連携しながら準備を進め、運営しました。大会当日は、普段接点の少ない職員どうしが自然に会話を交わし、互いに応援する姿が見られました。

また、競技だけではなく、参加者募集やチーム編成、運営準備の過程でも、職場を超えた交流が生まれました。私たちは、この大会を通じて交流促進という目的は一定程度達成できたと考えています。

しかし、その一方で、スポーツだけでは全ての職員に交流機会を提供することが難しいということにも気が付きました。運動が苦手な職員やスポーツに興味のない職員もいます。また、家庭事情や健康上の理由から長時間の運動が困難な職員もいます。交流の場を設けるのであれば、こうした職員も含めて参加しやすい仕組みが必要ではないかという意見が部内で出されました。交流をさらに広げていくためには、「スポーツ交流」だけではなく、別のアプローチも必要なのではないかという問題意識が生まれたのです。

【図表②】 第1回出雲市役所スポーツ大会の概要



4 『出雲市役所職員交流の日』の提案

2025年度の自治研活動の実践と、第1回出雲市役所スポーツ大会の検証を通じて、私たちがたどり着いたのは、「より多くの職員が参加でき、かつ継続可能な交流の仕組みが必要である」という結論です。

そこで提案するのが「出雲市役所職員交流の日」の取組です。これは、これまで取り組んできたスポーツ交流を否定するものではなく、スポーツ大会で得られた成果をさらに発展させるためのものです。「交流の日」当日は、午前にソフトバレーボール大会、午後にボードゲーム交流会の実施を想定しています。



スポーツに、対話を中心とした新たな趣向を取り入れることで、より幅広い職員が参加できる環境を整えます。

また、この取組を毎年継続することで、組織の文化として定着させることを目指します。私たちは、この取組を単なるレクリエーション事業ではなく、職員どうしの信頼関係を構築し、人材育成、人材定着、組織力向上につなげる人的基盤への投資であると捉えています。そして、その先には住民サービス向上という目的があります。自治体を支えるのは職員一人ひとりです。だからこそ、つながりを育む仕組みを整えることは、自治体経営にとっても有益であると考えます。

5 なぜボードゲームなのか

ボードゲームは運動能力や年齢に左右されにくく、誰でも気軽に参加できる特徴があります。また、ゲームを進める中で自然に会話が生まれ、相手の考え方や価値観に触れることができます。たとえ初対面どうしだったとしても、ゲームという共通の目的があることで会話が始まりやすく、交流のきっかけを作ることができます。さらに、多くのボードゲームでは、

- ・相手の話を聞く力
- ・自分の考えを伝える力
- ・協力して課題を解決する力
- ・相手の立場を理解する力 が求められます。

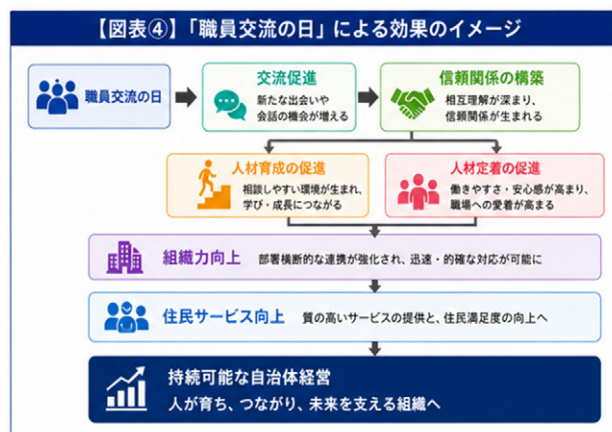
これらはまさに、日々、住民や自治会、関係機関と向き合い、相手の意見を聞きながら合意形成を図る自治体職員に必要な能力です。ボードゲームは楽しみながらコミュニケーション能力を高めることができるツールとして、大きな可能性があります。また、役職や年齢に関係なく同じ立場で参加することも大きな魅力です。管理職も新規採用職員も同じテーブルを囲み、同じルールで楽しむことで、普段の職場では見られない一面を知ることができます。私たちは、ボードゲームを単なる娯楽ではなく、人と人とのつながりを生み出すコミュニケーションツールとして位置づけています。

6 期待される効果と自治体経営への影響

この取組は、交流を通じて組織力を高め、その成果を住民サービス向上につなげることにあります。近年、多くの自治体では人材確保や人材育成が大きな課題となっています。少子化による労働人口の減少に加え、働き方や価値観の多様化が進み、若い世代は賃金や福利厚生だけではなく、職場環境や人間関係を重視する傾向があります。自治体の最も重要な経営資源は「人」です。どれほど優れた制度や計画があっても、それを実行する職員がいなければ住民サービスは提供できません。

「職員交流の日」によって形成された人間関係は、人材育成にも良い影響を与えると考えます。若手職員にとって、相談できる先輩や他部署の顔見知りがいることは大きな安心感につながります。また、職員どうしの信頼関係は働きやすい職場づくりにも寄与すると考えます。

私たちは、「職員交流の日」を交流促進⇒信頼関係構築⇒組織力向上⇒住民サービス向上とつながる取組として位置づけています。



7 今後の展望と課題

私たちは、「職員交流の日」を単発のイベントではなく、継続的な交流の仕組みとして組織文化へ定着させていきたいと考えています。開催日は毎年11月中旬の土曜日に開催することを想定しています。第1回出雲市役所スポーツ大会を11月に開催したところ、多くの職員に参加いただくことができ、比較的参加しやすい時期であることを確認できました。

開催場所は、ソフトバレーボール大会についてはサン・アビリティーズいずも等の体育施設を活用し、ボードゲーム交流会については会議室や研修室等の屋内施設を活用することを想定しています。また、事業の実施主体については、出雲市職員共済会を中心に、自治研推進部や青年部、職場サークル等が連携しながら運営を行うことを想定しています。

具体的な当日のスケジュール（案）は、下図のとおりです。

【図表⑤】「職員交流の日」実施イメージ（スケジュール案）			
開催時期（案） 2026年11月14日（土） ※毎年11月中旬の土曜日を想定 開催場所（案） ・サン・アビリティーズいずも（体育館） ソフトバレーボール大会 ・出雲市役所内会議室・研修室等 ボードゲーム交流会・懇親会 主 催（案） 出雲市職員共済会 自治研推進部・青年部・職場サークル等 目的 スポーツと対話を通じて、 部署・世代・役職を超えたつながりを育み、 働きやすい職場・住民サービス向上へつなげる	時間	内 容	内 容 詳 細
	9:00	開会式	・開会あいさつ ・競技・交流会の説明、注意事項 など
	9:30 ～ 12:00	ソフトバレー ボール大会	・チーム対抗戦（リーグ戦・決勝トーナメント） ・部署や世代を超えたチーム編成
	12:00 ～ 13:00	昼食・交流時間	・昼食をとりながら交流を深める時間 ・自由交流、写真撮影 など
	13:00 ～ 15:30	ボードゲーム 交流会	・グループに分かれてボードゲームを実施 ・初対面でも会話が生まれる対話型交流
	15:30 ～ 16:00	閉会式・表彰	・各種目の表彰 ・閉会あいさつ、次年度に向けて
	18:00～	懇親会（希望者）	・自由参加の懇親会（会費制・会場は別途調整） ・さらに交流を深める機会とする
スポーツと対話の両輪で、つながりを育み、組織力と住民サービスの向上へ！			

このように、スポーツとボードゲームを組み合わせることで、運動が得意な職員も、そうでない職員も、それぞれが参加しやすい交流の場を目指します。また、参加対象については、組合員に限定せず、管理職を含む全ての職員を対象とすることを想定しています。役職や所属を超えて交流することで、普段接点の少ない職員どうしの新たなつながりが生まれ、組織全体のコミュニケーション向上につながるものと考えています。

一方で、現在想定している実施主体は出雲市職員共済会であり、共済会事業の性質上、会計年度任用職員の参加が難しいという課題があります。会計年度任用職員が担う役割は年々大きくなっており、より良い組織づくりを考える上では、雇用形態に関わらず交流機会を確保することが重要です。今後は、実施主体や事業スキームの見直しも含め、全ての職員が参加できる仕組みについて検討していく必要があります。

しかし、この取組を組織の文化として定着させるためには、まだいくつかの課題があります。特に重要なのは、「参加したい」と思える魅力ある企画づくりと、継続的な運営体制の確立です。そのため、私たちは都度アンケートを実施し、参加者の満足度や交流の効果を把握するとともに、改善点を次年度以降の企画へ反映させていきます。

また、アンケートについては、より多くの職員の意見を把握するため、回答者の中から抽選で景品を贈呈するなど、回答率向上に向けた取組も検討しています。幅広い年代や所属の職員から意見を集めることで、より実態に即した事業改善につなげていきます。

さらに、将来的には、この取組を家族参加型イベントや他自治体との交流事業へ発展させることも視野に入れています。「職員交流の日」を通じて培われた信頼関係が、自治研活動や組合活動への参加促進につながり、組織全体の活性化につながることを期待しており、「職員交流の日」を一過性のイベントではなく、人が育ち、人がつながり、未来を支える組織文化として定着させていけたらと考えています。

【図表⑥】参加者アンケート結果（挿入予定）

今後の改善や次回の企画に活用するため、参加者アンケートを実施します。

① 大会満足度 ☐ 非常に満足 ☐ 満足 ☐ 普通 ☐ 不満 ☐ 非常に不満	② 次回も参加したいと思えますか ☐ 参加したい ☐ できれば参加したい ☐ どちらとも言えない ☐ 参加したくない	③ 交流の効果を感しましたか ☐ 非常に感じた ☐ 感じた ☐ あまり感じなかった ☐ 感じなかった	④ 自由意見 ・良かった点 ・改善してほしい点 ・今後実施してほしい企画 など
--	---	---	---

その他、属性（年代・所属など）についても把握します。
 ・年代：20代以下／30代／40代／50代／60代以上
 ・所属：本庁／各支所／病院・施設／消防局 など

多くの声を反映し、より良い「職員交流の日」を目指します！



8 おわりに

私たちは、地域スポーツ大会や職場スポーツ大会の企画を通じて、人と人とのつながりの大切さを改めて実感しました。

今後も人と人とのつながりを大切にしながら、より良い職場づくりと住民サービス向上に向けた活動をしていきます。この提案が、出雲市役所だけでなく、自治体における人材育成や組織づくりを考える一つのきっかけとなれば幸いです。